

CO-VIVID21

Vol.3



By 英米語学科4年塩崎ゼミ

ごあいさつ

CONTENTS

- ・ 斎藤教授思い出の「スウェーデン留学&グルメ」
- ・ 卒業生が語る「コロナ禍のワーホリ体験談」
- ・ 大野先生に聞く 教員の「カナダ留学」
- ・ 杉田君の「5社内定の秘訣」
- ・ 今知ってほしい「アフガニスタンの現状」
- ・ 留学再開へ向かう「イギリス・マルタ」
- ・ 日常は戻った？「現在のニューヨーク」

対面授業が再開し、世間も少しずつコロナ禍前の生活に戻りつつある。そこで、第3号では「飛び出せ、英米語学科生」をテーマに、最新の留学情報や海外の様子を扱った記事を取りそろえた。コロナ禍によって満足のいく学生生活を送れなかったすべての英米語学科生にとって、少しでも希望を与えることができれば幸いだ。

(編集長・横山 汐梨)

スウェーデン留学&グルメ ～言語学専門・齋藤純男教授～

スウェーデン料理？ 家具ショップのイケアのカフェで食事した人は「ミートボール！」と答えるだろう。今回は、モンゴル語など中央ユーラシアの言語が専門で、スウェーデンに暮らした経験のある、齋藤純男教授に話を聞いた。

● どうしてスウェーデンに？

ぼくは、南スウェーデンのルンド大学に客員研究員として行ってたんだ。

理由は二つ。モンゴル語の専門家と、スウェーデン語の高さアクセントの本質を解明した先生が、その大学にいたから。

ぼくは、モンゴルからトルコにかけて地域一帯の似たような言語の音声の研究をしていたんだけど、スウェーデン語とノルウェー語のアクセントにも興味があったんだ。

● スウェーデン料理といえば？ 金ぴかの○○○

スウェーデン料理といえば、ミートボールで、ジャムをつけて食べるんだ。ぼくはそんなに食べなかつたんだけど、最初は「え？ ジャム？」と思ったよ。

スウェーデンの食べ物の中で一番のお気に入りには燻製のニシンだね。皆が金と言って思い浮かべるような色でね、そのまま食べても、電子レンジで温めてもおいしいんだ。

燻製のニシンはスーパーでそのまま並んだ状態で売っていたかな。パンとか野菜と一緒に食べたよ。

左の写真は燻製のサバ。残念ながらニシンのいい写真がないので、どんなものか見たい人は「smoked herring」で検索してみてください。



● お酒の事情は？

スウェーデンはお酒に厳しくて、ビールとかワインは、レストランでは飲めるんだけど、街では気軽に買えないんだ。政府がやっている特別な店じゃないと売ってないし、価格も高いんだよ。

政府のお店で買ったのは一回だけ。お酒を選んで、カウンタで注文して待っていると呼ばれて、注文の品物を受けとる。これが面倒だったな。

スーパーでは、ビールは2.8%と3.5%までで、ワインは買えなかった。隣国のデンマークはお酒の販売に關して自由で、お酒も値段も安いから、海を渡って、買いに行く人も多いよ。

● 濃厚コーヒー！

スウェーデン人は休憩時間に濃いコーヒーを飲むんだ。エスプレッソと違って、普通のコーヒーをかなり濃く入れた感じかな。大学でも休憩時間になると、テーブルと椅子が置いてある学科のキッチンに集まって、みんな飲む習慣があったね。

ジャム付きミートボールよりも、黄金のニシンの方が日本人の食欲をそそるのではないかと思う。

首都ストックホルムは北欧のベニスと言われる、海沿いの美しい街である。きつとニシンだけでなく海の幸も豊かなのだろう。卒業旅行の候補に入れてみてはいかがだろうか？

(加藤 瑞貴)

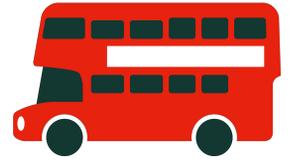


(1999年当時の齋藤教授)



コロナ禍の英国 ワーホリ体験談

人気!



2012年に本学を卒業し、2020年10月からワーキングホリデーで渡英中の道中夕貴さんに、現在のロンドンでの生活についてお話を聞いた。

Q ワーホリに行こうと思ったきっかけは？

大学卒業時に英語に苦手意識があったので、海外で働きたいという気持ちは全くありませんでした。しかし転職を繰り返しているうちに、もつとスキルを身に付けたいと感じました。そんな時に夫から「英語を強みにしたら？」と言われたのです。

イギリスは他の国と違い2年間フルタイムで働けるYMSビザがあります。1500人程の応募から抽選で当たりました。大学時代、長期留学をしていて縁があり、卒業後にも旅行で訪れたことがあったので、渡英を決めました。

Q コロナ禍の状況は？

私は2回目のロックダウン（都市封鎖）の前に渡英したので、その頃に比べて現在は日本人も仕事の数も増えていきます。就職活動はロックダウンと重なったので、求人がなく苦戦しました。しかしなんとか日系のスーパーマーケットのオンラインの部署で雇ってもらえたので、忙しく働いていました。現在はワクチン接種を終えている人がほとんどなので、マスクを

しなくてもいいと言われていますが、ただ日本人は自分を守るためにマスクをしていますね。新型コロナウイルスへの考え方は人それぞれです。

Q ロンドン生活はどう？

月に19・2万円から20・8万円です。内訳は家賃8・8万円、生活費5・7万円、その他4・8万円です（£111156・62円。10月25日時点）。

年単位だと語学学校に行くか、旅行保険に入るかどうかで費用に差が出ます。私は現地のNHSという国民健康保険に強制的に加入しなければならぬので、旅行保険には入っていません。これは原則診察料が無料ですが、待ち時間が長く、予約が取りにくいことがデメリットとして挙げられます。ただ、イギリスの医療制度は日本とは異なるので、予算があれば入った方がいいですね。

Q 海外で働くとは？

現在は日本食レストランと日系の花屋で働いています。現地では英語力・スキル・経験が重視されています。また日系の企業は長く働ける人を求めていますね。企業によりませんが、同僚は日本人でお客様が外国人という感じでした。イギリスは日本に比べて時間も服装も自由です。ワークライフバ

ランスが大切にされているので、楽な部分も多いです。一方、途中で職歴が止まってしまうのは、大きなデメリットだと思います。医者や家のクオリティも日本には劣るので、心配事は多いです。

Q 後輩へのメッセージ

私はコロナ禍で渡英したので、周囲の人からの反対もありました。現在イギリスは入国制限もなく隔離する必要はありません。しかし旅行などの制限はありますので、思い描いていることはできないかもしれません。

いったん日本で就職しても留学やワーホリのチャンスはあります。コロナ禍が落ち着くまで勉強や貯金をして準備するのも正解だと思います。どちらにしても後悔のない選択をしてください。

（河村 真由）



ロンドンの公園にて
道中夕貴さん

【大野先生インタビュー】 カナダ留学で見たこと

留学は学生だけのものではない。研究のために海外に渡る先生もいる。大野英樹先生はその一人で、現在カナダの大学にサバティカルで留学中。同国を選んだ理由や町の様子、留学の意義についてお話を伺いました。

Qなぜカナダへ？

ー現在、僕はカナダのブリティッシュコロンビア州（B.C州）にあるビクトリア大学に留学しています。

大学の教員が海外の大学に留学するためには、招待状が必要。これをもらうのが結構大変だけど、僕はビクトリア大学の先生から招待状をもらうことができました。

同大学を希望した理由は、自分の研究テーマに関する資料が豊富にあったり、学習環境が整っていたりするから。また、この大学があるビクトリアは自然が多く、鹿が生息している地域。のどかで住みやすい点も魅力だよ。

Qコロナ禍のカナダはどんな様子ですか？

ー比較的、日本に似ていると思う。8月の東京オリンピック以前は感染者数が落ち着いていて、9月から対面授業に戻りそうだなと予想していたけど、オリンピックが終わった直後から感染者が増加。そ

のため今は対面授業とオンラインのハイブリッドで授業が行われているよ。

カナダではワクチンパスポートが広く導入されていて、これがないと基本的にはレストランや美術館に入れない。ワクチンパスポートの導入は世界中で物議を醸しているけど、カナダの人たちは素直に受け入れているように見えるよ。

Qカナダの長所と短所は？

ー僕がビクトリアで見た限り、この国の良い点は、かなり真面目な人が多いこと。この町は隣国アメリカと近いので、「アメリカと雰囲気と同じ」と勘違いされやすいけど、実際は全然違う。

また、カナダ人は行動が早い。例えば、先ほど話したワクチンパスポートをカナダはすぐに導入したから、この取り組みは既に普及している。コロナワクチンも国民の75・2%（記事作成時点）が2回目の接種を終わらせているようだ。

短所については、少し矛盾しているかもしれないけど、僕が住んでいる地域が特に、真面目過ぎる点かな。コロナ禍もあり、夜に出歩く人はかなり少ない。刺激が足りないと思うし、遊びたい人には物足りないかもしれないね。あともう一つの大きな理由として、夜が寒すぎるんだ。みんな寒いから出かけないんだね。

Q留学を考えている学生にメッセージを。

ー海外に行くと、日本にいた時には見えなかったことが見えてくることが多い。例えば、僕はカナダ人が真面目で、学問に対する姿勢が真剣だということは、ここに来るまで知らなかった。留学は語学力だけでなく、人間として成長する機会でもあるので、コロナ禍が収束したら学生も積極的に留学してほしい。きっと自分の世界が変わるよ。（川口 あい）



B.C州議事堂の前で



トーテムポール

コロナ禍イギリス半年留学から 一部上場企業の内定ラッシュへの道

英米語学科4年生の杉田駿さんは東証上場企業から5つ内定を勝ち取る好成績を収めた。取材を重ねて、この好成績のカギが分かった。

●逆境は成長のチャンス

杉田さんは「これまでの経験や取り組みに自信を持つこと」を念頭に就活に取り組んでいた。

自信といつても傲慢ではなく、あくまで謙虚であることを強く意識した。緊張を抑え、堂々と面接に望む手助けになったという。

そんな自信を生み出すきっかけになった逆境が二つ。留学中に発生したコロナのパンデミックと、高校時代、サッカーでの怪我を乗り越えたりハビリだ。

どちらも予想外のトラブルだったが、「面接でピンチを切り抜ける力としてアピールできた」と、静かに、しかし力をこめて前向きに語った。

●行くだけでは評価されない留学

留学の経験は華やかに聞こえるが、必要な条件を満たせば誰にでも行くことができる。留学の実態も玉石混合だったりする。

ましてや相手は多くの学生を相手にしてきた面接官。そんなことは百も承知だ。

杉田さんは、イギリスがコロナの猛烈なパンデミックに襲われても日本に帰国しなかった。面接の時、この緊張に満ちた日々への対応を聞かれた。

帰国の判断を迫られた時、イギリスだけでなく日本にいる人達にも相談を持ちかけ意見を聞いた。

拓大の留学プログラムは世界中から留学生を帰国させた。けれど、自費の個人留学の杉田さんには選択の余地があった。

周囲の人から助言を聞き、多くの人の意見を求め、最終的には、決断を自分で下した。それこそが杉田さんがコロナ禍での留学から学んだことだった。

この力は就活の準備段階でも着実に発揮されていくことになる。

●就活も情報収集と決断で乗り切る

留学から帰国したのは3年生の8月。緊張感から解放された反動もあってか杉田さんが就活をスタートさせたのは冬だった。出遅れた感もあったが、杉田さんが

取った策は、ここでも広範な情報収集とシンプルなトライアル&エラーだ。

最初は焦りもあり、自己分析をじっくりしていなかった。なので、実際に面接を受ける中で調整を重ねていった。

エントリースートの添削を大学の先生に頼み、面接の練習を就職課で重ねることでコツコツと準備を進めた。留学の時と同じく、周囲のアドバイスを力に変えていったのだ。

就活のポイントの一つを、「頼れるところには頼る」と杉田さんは言い切る。「礼儀正しく頼まれると、何かしてあげたいと思っちゃうんだよね」と塩崎教授。

杉田さんは帰国後、TOEICで900点以上を取ったが、それは副産物でしかない。留学の主産物は、もうおわかりですよ。

(堀江 冬到)



留学当時の杉田さん

混迷深まるアフガニスタンの現状を、モハマド・ジョゼフさん (2年生、両親アフガニスタン人)に聞く



アフガニスタン基本情報

パキスタンや中国に隣接する内陸国で、何度も侵略された歴史を持つ。また、人口の99.7%がイスラム教徒で、政教分離をしないため、宗教に沿った政治が行われている。

アメリカ同時多発テロの主謀者とされた、オサマ・ビンラディンの引き渡しをタリバン政権が拒否したことから、アメリカはアフガニスタンに米軍の駐留を開始した。しかし、今年4月にアメリカ政府は撤退を発表し、これを機にタリバンが台頭し、政権を再度掌握した。

モハマドさんによると、現在3000人ほどのアフガニスタン人が千葉などに住んでいるという。

一時期、空港で飛行機にしがみつこうようにして国外脱出を図ろうとする多くのアフガニスタン人の映像が連日ニュースで流れていた。アフガニスタンでは何が起きているのか。ニュースでは伝えられない状況を、英米語学科2年生で、両親がアフガニスタン人のモハマド・ジョゼフさんと彼の母に聞いた。

Q タリバンの実態と印象

まず、今回政権に復帰した、イスラム原理主義組織、タリバンについて聞いた。モハマドさんの母の話によると以下の通りである。

過去に母の兄がタリバンに拉致され、暴力を受けたことがあったので怖い。アフガニスタンでは、教育を受けた人や、他国で働いている人など、タリバンに反抗する可能性のある人が制裁の対象となっている。

6つの民族（パシュトゥーン、ハザールなど）間の対立が昔からあったため、パシュトゥーン人であるタリバンは、モハマドさん一家のハザール人を憎んでいるらしく、日々ハザール人を探して迫害を続けている。

Q アフガニスタンの現状と将来は？

タリバン政権の復活により、国民の生活はどう変わりつつあるのか。モハマドさんの母は次のように語ってくれた。

女性は外出が出来ず、学校にも行けないし、夜になるとタリバンが家に押しつけて来る。

タリバンは国中のネットワークを無くしたため、現状が世界に正確に伝わらない。例えば、カメラマンがタリバンに関する不利益な情報を流した場合、監禁されてしまう。また、タリバンが畑や家に火を放ったので、多くの人は現在、山に住んでいる。

将来的にはもっと戦争や内戦が増えて、状況は悪化するだろう。また、飛行機も飛べない状況なので、アフガニスタンに住んでいる人は、もっと苦労することになると思われる。

Q アフガニスタンについて皆に伝えたいこと

モハマドさんによると、彼自身、アイデンティティは日本人だが、自分の中の

アフガニスタン人の部分が刺激され、自分だけここで平和に暮らしているのか、と罪悪感を覚えると言った。

両親はアフガニスタンのニュースを、怒り、恐怖、精神的苦痛で見られない。

モハマドさんの母の家族は今もアフガニスタンに住んでいて、アフガニスタンから出ることも難しいのが現状だ。日本政府に対しては、日本に親戚がいる人々に、ビザを与えるなどの処置をしてくれることを望んでいる。そして、日本人にも、今、アフガニスタンで起きていることを知ってほしいと話している。

(本城真優)



モハマドさんと家族

留学再開へー イギリスとマルタの例

この2年間、新型コロナウイルスの流行により留学を諦めている学生が多い。大学側も強く自重を求めている一方、海外留学を開始した大学の情報も入ってくる。本学工学部でも、アメリカ留学が来年1月から再開することが決まった。英語圏で今、比較的留学しやすい国と言われているイギリスとマルタについて、留学に詳しい観光会社の担当者に話を伺った。

◆コロナ禍で英語留学しやすい2か国

10月14日現在でのイギリスの情報は次の通り。イギリスは、世界の地域で危険と思われるエリアをレッド・リストに載せている。日本は入っておらず、日本人が入国する場合、ワクチン接種証明書を提示し、乗客者追跡フォームを入力する。入国後は2日目にウイルス検査を受ける義務がある。ワクチンを打っていない人も入国は可能だが、10日間の隔離や入国後の2日目及び8日目の検査受検が必要など手間がかかることが多いので注意が必要。

マルタはイタリアの近くの島国で、日本人の場合ワクチン接種証明があれば14日間の隔離が不要。接種証明がない場合、到着72時間前に取得した陰性証明が必要になる。(入国は出来るが隔離は必要)

◆イギリス・マルタの語学学校の現在と過去

新型コロナウイルスが世界で流行し始めた昨年4月頃、両国の学校は一斉に封鎖を始めた。学校は事業継続のためにオンライン授業を導入し、試行錯誤しながら7月頃から対面授業を本格的に再開。

生徒数の確保という課題があり、今なお、オンライン授業に軸足を置く学校はあるが、世界各国の渡航制限の緩和に伴って、留学生の動きに復活の兆しが見られる。

◆学校側の感染対策・もしもの場合

イギリスとマルタでは、日本とほぼ同様の感染対策が取られている。イギリスの語学学校は比較的規模が小さい学校が多いため、通路を一方通行にしてソーシャルディスタンス確保に努めている。

イギリスかマルタに在る間に新型コロナウイルスに感染してしまった場合、滞在国の政府の方針のもと医療措置を受けることになる。語学力に不安があり、病院での措置が受けられるか不安な場合でも、留学の仲介業者によっては、24時間の電話対応があったり、海外保険会社に連絡することで対処可能だ。

イギリスの場合はNHS(国民保健サービス)により賄われている病院を利用して無料で医療費が無料になるので、ホストファミリーや学校の受付に聞いてみると良い。

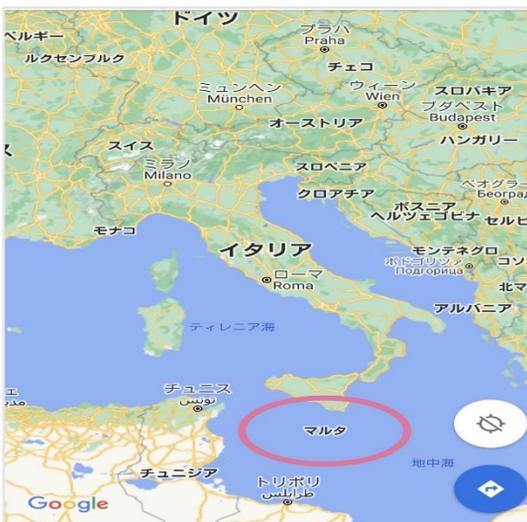
◆留学を考えている学生へ

日本政府による帰国後の10日間の自粛も計算に入れて予定を組むことや、入国の際に必要な検査キットを日本出発前に予約しておくことが大切だ。

入国や滞在方法に関する情報は一刻と変わるもので、日本及び留学先の政府の公式発表を随時チェックしておくことと安心。また、行きかえりの飛行機も変更、キャンセルが相次いでいるので、直行便がおすすめだ。

コロナ禍で生徒が減少している今だからこそ、授業でたくさん発言することだったり、先生から指導してもらえたりが増えたりするなどのメリットがあるかもしれない。特にイギリスはヨーロッパ内からの留学生が多いのでぜひ行ってみたい。

(岡本 紘汰)



マルタの位置 【出典：Google】

ニューヨークは元に戻った？ ～「特派員」の報告～



新型コロナウイルスの影響で、世界の大都市から人々が消え、ゴーストタウンと化した。日本では徐々に街に人が戻っているが、他の国はどうだろうか？そこで今夏、研究のために1週間ニューヨークに滞在した塩崎智教授に現状を聞いた。

日常は戻るも、接種つづく

ほとんどのニューヨーク人はマスクを外し、「三密」の意識もほぼ皆無。バスや地下鉄ではマスク着用の義務があるが、ちゃんと着用していない者もいる。今でも街のいたるところでワクチン接種が無料で行われ、接種をしてもらうために、地下鉄の無料券やネットショッピングの利用券が接種した人に配られている。

歓喜の舞うコロナからの解放

街を歩くと、人々から解放感がみられた。週末に訪れた公園では、噴水のまわりで音楽に合わせて人々が躍っていた。これには「コロナからの解放への喜びを感じた」という。



屋の野外マーケット

レ스토랑では営業時間の制限がなくなり、飲酒も可能に。店内も満員で、人々の話し声で騒がしく、「話し相手の声が聞こえなくて

困った」というほどだった。

新しい生活様式の弊害



マンハッタンの目抜き通り

あった。テレワークでランチタイムのオフィス街の人は少ない。また夜も以前のようにならなくなった。コロナの影響のせいか、レストランの数も減っている印象もあった。

犯罪率上昇のニューヨーク

アメリカ国内でアジア人への暴力行為が問題視されていた。滞在中、そのような目に遭ったことも経験した人を見たことも無かった。とはいえ完全には言い切れないので注意が必要。また、アメリカでマリファナも解禁され街中で売られるようになったので気をつけなければならない。

空港も変わる、されど戻らず

コロナで街が変わったように、空港も変わった。機内の席は間隔をあけて座るのは当たり前。行き帰りでPCR検査（搭乗前72時間以内）を行い、陰性証明書を提出しなければならなかった。費用は国でバラバラ。

日本では自費（1万5千円〜4万円）だが、アメリカでは場所によってタダで受けられ、発行してもらえない。しかし、証明書の内容が杜撰なので自分でチェックする必要がある。少しでも不備があると日本に帰れなくなる。日米ともに日常が戻りつつある。空港に日常が戻るのはいつになるのか。

帰国して

「ニューヨークに行ってきたと言うと、必ず驚かれる。ほとんど全ての日本人が『海外に行けない、そして海外の方がコロナに関しては、危険だ』と勝手に思い込んでいます。」
「今回の報告で、その妄信は払拭されたと感じたい。百聞は一見にしかず。ネット上の情報に頼らない。最高のメディア・リテラシーは、自分の目で見、耳で聴き、肌で触れることである。」
WE CANNOT WAIT ANY MORE.

(南野 太志)



「COME ON 扇子」

長かった鎖国が終ろうとしている。2年間、拓大生は国境を超えることができなかった。

今、外国に行くことは、本当にそんなに危険なことなのだろうか。自分は常に、そのような疑問を抱えて生きていた。そして、やむをえず米国に渡ったこともあった。

日本では、地獄のように思われていたニューヨークでは、人々がコロナからの解法を心から楽しんでいた。

自分の目で見て、自分の耳で聴き、自分の肌で触れることの大切さを改めて感じた。コロナ禍では、オンラインが持てはやされた。その豊かな可能性を否定するつもりはないが、オンラインで、正体不明のストレスを多くの人が感じていたのも事実だ。

就職課と国際部のコラボの説明会、国際の留学説明会は大盛況だった。

今の学生は、公の場では黙っていて、デモ行進などしない。しかし留学への熱い思いを学生が体現してくれたことに、大きな喜びを感じた。

外国語学部長として、そんな彼等の背中を押して、有益な情報を提供することが責務だと考えている。

(汐咲里志)

「編集後記」

10月に4回目の緊急事態宣言が解除され、都内では一日の感染者数が20〜30人台が続いている。飲食店などの営業時間の短縮要請も解除されるなど、世間が少しづつコロナ禍前の生活に戻りつつある。

その中で、我々の新聞では「飛び出せ、英米語学科生」をテーマに、最新の留学情報や海外の様子をメインに扱った記事を取りそろえた。コロナ禍によって満足のいく学生生活を送れなかったすべての英米語学科生に、わずかでも希望を与えることができれば幸いだ。

年末に向けて新型コロナウイルスの感染状況がどうなるかは未知である。このまま終息を迎えて、学生が「学びたい」と思ったその時に自由に海外へと飛び立てるような、以前の状態に戻らないだろうか？ そんな日が近づいていることを祈る。

(横山 汐梨)